

2026年度 長岡大学シラバス

授業科目名	ゼミナールⅣ (Seminar Ⅳ)					担当教員	中村 大輔 (ナカムラ ダイスケ)	
2020-23年度 入学者(20K-23K)	科目コード	科目区分	必修・ 選択区分	単位数	配当年次	開講期	科目 特性	協同学修型 AL
	2025-0-41-061	ゼミナール 科目	必修	2単位	4年次	通年		
2024-26年度 入学者(24K-26K)	科目コード	科目区分	必修・ 選択区分	単位数	配当年次	開講期	科目 特性	協同学修型 AL
	2425-0-41-006	ゼミナール 科目	必修	2単位	4年次	通年		

① 授業のねらい・概要						
<p>中村ゼミでは「会計を通じて企業を知る」をテーマとしている。特に企業が公表する有価証券報告書を中心としたオープンデータによる定量的ないし定性的な分析（いわゆるデータサイエンスの一分野）により、企業の戦略とその成果を明らかにし、さらにはその将来像を見通すことができる。</p> <p>本年度は、Pythonを用いたオープンデータ分析を通じて、公的統計・経済統計を自ら取得・加工・可視化し、社会経済の構造をデータに基づいて理解する能力を養う。これにより、次年度以降の有価証券報告書分析において、企業データと公的統計を組み合わせた多角的・構造的な分析を行う基礎力を身につけることを目標とする。</p>						
② ディプロマ・ポリシーとの関連						
地域社会に貢献する姿勢／職業人として通用する能力／専門的知識・技能を活用する能力／コミュニケーション能力／情報収集・分析力						
③ 授業の進め方・指示事項						
資料収集やデータ入力および分析のためにPC必携とする。						
④ 関連科目・履修しておくべき科目と履修に望ましい予備知識・技能						
「会計学1・2」、「財務会計1・2」「管理会計」、「経営分析」を履修することが望ましい。						
⑤ テキスト（教科書）※授業で使用する。						
住吉遼・原泰史（2025）『Pythonではじめるオープンデータ分析』講談社						
⑥ 参考図書・指定図書 ※授業では使用しないが、授業内容に関係し、理解を深めるために必要とする。						
稲垣大輔ほか(2023)『Pythonではじめる会計データサイエンス』中央経済社 笠原晃恭・村宮克彦(2022)『実証会計・ファイナンス Rによる財務・株式データの分析』新世社						
⑦ 担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等）						
自らPythonを使ってデータの入手から分析まで一気通貫でできるようにしたい。						
⑧ 評価Aに対応する具体的な学習到達目標の目安						
(1) 再現可能な分析環境・作業手順を構築できる (2) 公的統計・オープンデータをAPI等で取得し、分析可能な形に前処理できる (3) 公的統計と企業データを接続し、根拠ある分析・可視化・報告ができる						
⑨ ルーブリック						
評価基準		S	A	B	C	D
評価項目		到達目標を越えたレベルを達成している	到達目標を達成している	到達目標達成にはやや努力を要する	到達目標達成には努力を要する	到達目標達成には相当の努力を要する
(1)	分析環境・作業手順の構築	再現性が非常に高い。加えて、例外処理・設定分離・ディレクトリ設計などが整い、保守・拡張が容易である。	手順に基づき他者がローカルで実行して同等の結果が再現できる。実行手順・入出力が整理されている。	概ね動くが、再現に小さな詰まりがある（手順不足、環境依存の記述、ファイル配置が曖昧など）。	本人環境では動くが、第三者再現が困難である（手順がない／依存が不明／ファイルが散逸）。	実行できない、または成果物が不足して再現不能である。
(2)	データを取得し、分析可能な形に前処理できる	取得が安定しており、メタデータを明示し、前処理の妥当性を根拠付きで説明できる。	API/公式データから取得→整形→結合まででき、分析に支障のないデータセットを作れる。出所・単位・期間の説明がある。	取得はできるが、前処理が不十分（単位・粒度・期間のズレが残る／欠測処理が曖昧など）。	手動ダウンロード中心で再現性が低い、または前処理の誤りが多く、分析に使える形になっていない。	データ取得ができていない、あるいは誤ったデータを使用している。
(3)	データについて、根拠ある分析・可視化・報告ができる	問いが鋭く、仮説→検証→反証可能性の議論がある。可視化が説得的で、文章・スライドの論理が非常に明快である。	問い→データ→手法→結果→解釈が一貫し、公的統計と企業データの接続に無理がない。可視化が適切で、結論と限界が書けている。	分析は成立しているが、問いの焦点が弱い／解釈が飛躍する／接続（単位・期間・粒度）の説明が不足し、説得力がやや落ちる。	グラフや数値提示が中心で、解釈が薄い、または接続が不適切（比較の土台が揃っていない）。結論が根拠不足。	分析・報告が成立していない（図表不足、誤りが多い、結論が出ていない）。

⑩ 学習の到達目標（評価項目）とその評価の方法、フィードバックの方法								
学習到達目標（評価項目）	定期試験 (レポート含む)	小テスト	課題	発表・ 実技	授業への 取組姿勢・意欲	その他	合計	
総合評価割合				80%	20%		100%	
(1) 分析環境・作業手順の構築				25%	10%		35%	
(2) データを取得し、分析可能な形に前処理できる				25%	10%		35%	
(3) データについて、根拠ある分析・可視化・報告ができる				30%			30%	
評価項目「その他」詳細								
フィードバックの方法	作成したレジュメや報告書等は授業中に適宜コメントを付ける							
⑪ 授業計画と学習課題								
回数	授業の内容	授業外の学習課題と時間（分）（※特別な持参物）						
1	ガイダンス	テキスト第1章を読む						120分
2	ローカル環境の構築	Python、GitHub、Antigravity 環境の構築						120分
3	GitHub および GitHub Desktop の基本操作	GitHub からリポジトリをクローンし、実行する						120分
4	ワークフローの設計	分析用のフォルダを作成、README.md の作成						120分
5	Pandas とデータフレームの基本	CSV(TSV)を pandas で DataFrame にする						120分
6	データ整形と結合	なぜ、整形が必要かを考える。						120分
7	整然データと分析しやすい構造	ワイドテーブルとロングテーブルを変換してみる						120分
8	統計の基礎	簡単なヒストグラム等を作成してみる						120分
9	Plotly の基本	Plotly で簡単なグラフ・図を作成してみる						120分
10	オープンデータと公的統計	日本および海外の統計を調査する						120分
11	API の利用	なぜ CSV ではなく API が良いかを考える						120分
12	e-Stat API の構造理解	e-stat API でデータを取得、JSON から DataFrame へ変換						120分
13	金融データ①：金利・金融政策	金利推移を可視化し、政策との関係を考察する						120分
14	金融データ②：株価・指数	株価指数を取得・可視化する						120分
15	企業データ分析の基礎	売上高推移を可視化する						120分
16	後期ガイダンス	資料の収集と分析の準備を進める						120分
17	収益性分析	対象企業の収益性を分析する						120分
18	安全性分析	対象企業の安全性を分析する						120分
19	生産性分析	対象企業の生産性を分析する						120分
20	成長性分析	対象企業の成長性を分析する						120分
21	時系列分析	対象企業の収益性・安全性・生産性・成長性を時系列で見ておく						120分
22	業界平均との比較	対象企業と業界平均との差を見ておく						120分
23	報告書の作成・発表①	データを表やグラフにまとめる						120分
24	報告書の作成・発表②	定性的データを収集する						120分
25	報告書の作成・発表③	報告書の分析視角から構成を決める						120分

26	報告書の作成・発表④	報告書の本論を執筆する。	120分
27	報告書の作成・発表⑤	報告書の本論を執筆する。	120分
28	報告書の提出	報告書を完成させる。	120分
29	報告書発表会①	各自の報告書を発表するための原稿作り	120分
30	報告書発表会②	各自の報告書を発表するための原稿作り	120分
⑫ アクティブラーニングについて			
協同学修型ALを採用する。各自が主体的に分析に取り組み、報告を行う。			

※以下は該当者のみ記載する。

⑬ 実務経験のある教員による授業科目
実務経験の概要
実務経験と授業科目との関連性